

# 研 修 部 だ よ り

## テーマ別研修

### 視機能評価の仕方

2月8日(木)に視機能評価の仕方について研修を行いました。講師は視覚支援センターの鎌田先生、吉瀬先生、三木先生です。

本校では毎年4月に遠距離視力、近距離視力、最大視認力の測定をしています。今回はランドルト環を使用した遠距離視力測定の仕方の演習を行いました。



#### 準備

検査者の立つ位置から1mごとに5m離れたところまで床上にテープ等で印を付けておく。

カーテンを使用し、直射日光が入らないようにする。明るい室内で行うが、まぶしすぎないように配慮する。



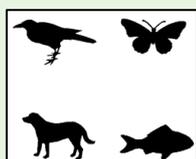
#### 事前

幼児や小学部低学年では、検査に対する不安や不慣れのために正確な検査結果が得られないこともあるので、事前に練習をする。

ハンドルを子どもに持たせてランドルト環と同じ形に動かす方法もある。



他にも、うさぎの目の有無を判定する「森実式(もりざねしき)ドットカード」や、ちょうちよ・とり・いぬ・さかなの絵視標を用いた検査方法もある。



#### 検査方法

1. 視標から5mの位置に立たせるか椅子に掛けさせる。
2. 過去の測定値を参考に提示する視標を決める。裏返してくるりと回しながら視標の向きを変え、4方向のうち3方向を正しく判別できれば「正しく判別」と判定する。迷う場合は5回提示して3回判別できるかで判定する。
3. 5mの位置で0.05のランドルト環が見えなければ、検査者が4mの位置へ移動して測定。そこで見えれば  
 $0.05 \times 5 \text{分の} 4 [0.8] = 0.04$ となる。  
3mの位置で見えれば  
 $0.05 \times 5 \text{分の} 3 [0.6] = 0.03$ となる。



ランドルト環での検査が難しい場合は、検査者の指の数を答えさせ、正答できる最長距離により視力を表す。「〇cm/指数弁」等と表記。

検査者の手掌を眼前で上下左右に動かし、動きの弁別できる視力を「手動弁」という。

暗室にて眼前で照明を点滅させ、明暗が弁別できる視力を「光覚弁」という。

#### 注意点

- ▼眼の高さとほぼ等しい高さに視標を提示する。
- ▼縦のみ、横のみの正解では乱視を見逃すことがあるので、縦横のバランスが偏らないように視標を提示する。
- ▼眼を細めるとピンホール効果で見えやすくなるので、眼を細めていないか確認する。
- ▼飽きてしまわないよう適宜言葉かけを行い、集中できるように促す。